

水稲除草剤プレチラクロール剤の流出を低減する 水田の水管理技術

福島県農業総合センター 生産環境部
平成18～19年度農業総合センター試験成績概要

1 部門名

農業環境 - 農業環境 - 水管理・水分制御、環境汚染
分類コード 11 - 01 - 14360000

2 担当者

齋藤 隆・木照修

3 要旨

水田除草剤の成分であるプレチラクロール剤は移植前に散布されることがある。この場合、移植時の落水により排水路に高い濃度で流出する危険性が高い。このため、水田における田面水中のプレチラクロール剤の濃度変化、落水時の濃度および排出量からプレチラクロール剤の適正な使用法について検討した。

- (1) 県内の基幹排水路において排水中の初期除草剤の成分であるプレチラクロール濃度は、一部の地域で水質評価指針の基準値を超えた。
- (2) 田面水中のプレチラクロールの濃度は、散布1日後に最大値を示した。その後経時的に減少し、散布4日後では最大値の約半分、散布7日後では最大値の約1/4まで減少した。
- (3) 排水中のプレチラクロール濃度は散布4日後および散布7日後でそれぞれ40 µg/L、16 µg/Lであった。散布7日後の落水であれば水質評価指針の基準値以下に抑制することができた。
- (4) プレチラクロール剤散布後、7日間程度は止水管理とし、落水やかかけ流しをしない。

4 その他の資料等

なし